

JASCT

ニューズレター

第12巻第4号

平成5年(1993年)12月

発行人：松本清一 印刷所：絢文社

第23回 性治療研修会開催予告

日 時 平成6年4月24日(日) 9時30分～17時
場 所 日本赤十字看護大学(東京・渋谷)
テ ー マ 1. 性カウンセリングの理論と技術
2. 最近のインポテンス治療の進歩
3. レイプの現状と治療者の対応
4. セックスレスの概念と診断治療

第14回 日本性科学学会開催予告

日 時 平成6年10月23日(日)
場 所 山形市中央公民館(山形市七日町1-2-39)
学 会 長 広 井 正 彦(山形大学医学部産科婦人科教授)
特 別 講 演 「日本人男女の性生活の実態について」(仮題)
札幌医科大学泌尿器科教授 熊 本 悦 明
学会長講演 「生殖生理学よりみた婦人の性行動」(仮題)
事 務 局 山形大学医学部産科婦人科教室 第14回日本性科学学会事務局
〒990-23 山形市飯田西2-2-2
TEL 0236-33-1122 (内)2263～5
FAX 0236-25-2722

Vol.12

No.
4

JASCT 事務局

〒107 東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル西館3F

長谷クリニック内

TEL 03(3475)1780 FAX 03(3475)1789

性 交 拒 否

神 尾 記 念 病 院 堀 一 子
JASCTカウンセリング室

G子さんは2年前に結婚しましたが、彼女が性行為を好まないで、これまでの夫婦の性交回数は10回足らずでした。そしてここ半年位前からは完全に彼女が拒むようになったので、治療に訪れたとき二人は、セックスレスの状態でした。G子さんの夫は、夫婦の間で相手が嫌がるものを無理にしても、半ばあきらめ気味でした。治療室に入ってきたG子さんは、30才の女性とはとても思えない幼いキョトンとした表情で、着ている服も一風変わった若者風で、とても30才の女性の着るものには見えませんでした。治療は、夫と母親の強い希望で始まりました。

さて、女性が初潮を迎えた時の気持ちというものは、人それぞれに様々なものですが、その時の事を覚えていないという人は、おそらくほとんどいないのではないのでしょうか。ところが、G子さんはそのことが5年生の時だったか6年生の時だったかさえ思い出せません。さらに彼女は性に関しては知りたいと思ったこともないし、男女の性行為というものをいつ頃知ったかもよく覚えていません。

そのG子さんの性の初体験が16才なのです。子どもの頃から友達が少ないG子さんは、いつの頃からかアマチュア無線に仲間を求めるようになっていました。初体験の相手はその無線仲間の一人でした。それも、ある時突然ドライブに誘われ、そのまま半ば拉致されるように連れ去られ、もう家には帰れないなあと思って10日間程一緒に暮らしていたところ、搜索願いが出ていて発見されました。その男性と別れて間もなくG子さんは、やはり同じ無線仲間のこれもまた前の人と同じく妻子ある男性と付き合いしました。こうしてG子さんは、次々と無線仲間の人、年上の人、年下の人、彼女がアルバイトをしていたスナックの客、従業員とはほとんど切れ目なく付き合い、その都度彼らと性関係を持ちました。中には、結婚の約束をした人もいます。しかし、いずれも彼女のほうが不満を感じるようになり、簡単に別れました。この何人もの男性達の中で今の夫と結婚したのは、単なる行きがかり上のものでした。そして今度も夫が嫌いになってきたから、夫との性生活もいやになってきたとG子さんは思っています。

16才の初体験から次々と男性を渡り歩く姿は一見享樂的でいかにも一人の男性では満足できない性欲の強い女性のようにみえます。しかし、G子さんはどの男性との性行為もいいと思ったことがありません。どうも彼女は成熟した女性としてセックスをしていたのではなさそうです。それでは、彼女は何故次々と男達とセックスをしていたのでしょうか。それは、セックスをしているととりあえず男性と一緒にいてくれるので、いつか孤独感がまぎれるからです。ところが、相手がそれ以上の人間的交流を求めてきたとき、彼女にはそれを理解するだけの中身が育っていないので、その男性との関係（性交関係も含めて）は、無意味で退屈なものになります。結果、彼女は次の男性へと表面的な刺激を求めてまたさまようのです。中身がないことによる、人とのつながりのない寂しさを、G子さんはこのようにして紛らしていたのです。

治療の中で分かってきたことです。彼女の父親は元々体の弱い人だったそうですが、結婚をして子どもがいるという自覚もなかったらしく、あまり仕事もせず、ふらふら遊んでいるうちに、お酒がもとで早死にしてしまいました。母親は生計をたてるため夢中に働いているうちに、いつのまにか娘も夫と同じ様な生き方をしている事に、気がつかないようでした。G子さんは、その年齢年齢にふさわしい精神内面が、上手く育たずにきた人のようでした。先に述べた初潮や性への自覚の不確かさは、このことを物語っているようです。G子さんは、信頼し合ってもっと深い関係になろうとする夫を理解できず、疎ましく思えてきました。

ところでG子さんと父親の違いは、G子さんは働いてお金をいっぱい貯めることです。そのところだけを見れば、母親が安心するのも無理はありません。しかしそれは日々の生活を豊かにしたいという内面からの欲求がないため、使うことがなく自然にお金が残ると、空虚な夜を一人で過ごすよりは、スナックで遊んでいたほうが楽しいのだからでした。スナックで使う側にならず稼ぐ側になったのは、父親に稼ぎがなくよい家に住めなかったのが、世間から疎外されたG子さんが思っていたからです。

G子さんが、決定的に夫との性生活を受け入れられなくなったのは、子どもの頃から夢だった自分の家を建てた頃でした。彼女は、結婚をするまでに家の購入資金としては十分なお金を貯め、結婚して間もなくマイホームを手に入れました。家を建てれば、空虚な気持ちが満たされると思ったのでしょう。しかし、入れ物はできて中にはいるものはありません。G子さんは今度はお金を貯めることをやめ、一晩に何万円も使って遊び歩くようになりました。夫もそのような彼女との生活に疲れ果て、二人の治療への意欲は急速に落ちて行きました。

最終回、彼女は、「確かに私は中身のない風船で漂ってきました。でもそれは、30年の間に自分を守るために作りあげてきた生き方なのです。積み重ねたものはどこかでその積み木を一つはずされるとガラガラと崩れる。だったら、風船でいた方がまだまし」と言うのでした。たしかに風船の彼女から見れば、積み重なったものはひとつはずせばガラガラ崩れる積み木にしかならないのかも知れません。G子さんは、今の内に治しておいた方がいいのかなとも思いますが、「風船はうっかり針でつかれるとおしまいだから、怖い!」ともいいます。「針でつかれるのではなく、自分でゆっくり糸をほぐし、その糸口から中身を注ぐと言う気持ちになったら、今度は誰かに連れて来られるのではなく、自分でいっちゃい」と言って、別れました。

地方活動の紹介

三重県性科学研究会設立の経過

三重県性科学研究会会長 亀 谷 謙

第12回日本性科学学会終了後、三重大学産婦人科学教室、泌尿器科学教室、精神神経科学教室の後援もあり、産婦人科医の有志諸氏により20数回の打ち合せ相談会、研究会、座談会等を持ち丁度1年を経過して、第1回三重県性医学研究会を開催する運びになった。現在事務局は三重大学医学部産婦人科学教室内に置き、事務局長として国立津病院産婦人科医長の松本隆史先生にご労作をかけている。

第1回三重県性医学研究会は、平成5年9月9日、三重県文化会館にて開催された。参加者は医師など医療関係者、教育関係者、行政等約120名で大盛況裡に終了した。プログラムは、「十代の妊娠と性」（鈴鹿回生病院 金丸恵子）、「日母性教育セミナーに参加して」（桑名市民病院 中山尚夫）、「三重県における女性の性行動に関する検討」（山田赤十字病院 野村浩史）、特別講演は「エイズウイルス感染のケア」（東京都立駒込病院感染科 根岸昌功）であった。

医学は先端技術を駆使して、今や遺伝子操作にて生体のメカニズムが解明され、全く画期的な治療法も開発されつつある。しかし、この専門細分化の時期でこそ Integration 統合が大切であり、Sexology は医学ばかりでなく、他領域のすべての文化の統合を目指す学問であるだけに、もっとも今日に於て要望されるメリットのある領域であると私は確信している。

今後とも、医師、医学研究者の諸先生方、特に産婦人科、泌尿器科や精神科の先生達が Sexology の重要性をご認識いただき、教育関係その他のジャンルの方達と手を携えて、この方面の研究、普及活動を発展させたいと願っている。

症例研究会のお知らせ

実際の性治療をしていく際には、さまざまな問題点にぶつかるものです。性治療の研修には他の分野と同じく、症例研究が欠かせず、会員からの要望も強かったのですが、症例研究会をもつチャンスがなかなかありませんでした。これまで有志で行っていた症例研究会（その一部は学会誌の“症例研究会より一症例報告”として報告されています。）を拡大して会員の研修の場としたいと思います。いろいろな分野の方が集まって体験と知恵とを共有出来るよう願っております。

今回は次の要領で行います。関心のある方は奮ってご参加ください。なお、参加ご希望の方は1月10日までに事務局までお申し出ください。

日 時：1994年1月17日 午後6時30分より8時30分まで

症例報告者：山田 純子（千葉メンタルクリニック）

症 例：「早漏の一症例」

スーパーヴァイザー：阿部 輝夫（順天堂大学浦安病院）

場 所：JASCT事務局

（場所は参加者数によって変わる場合があります）



新幹事紹介

ご あ い さ つ

聖マリアンナ医科大学泌尿器科 矢 島 通 孝

この度、JASCTの幹事を委嘱され、大変光栄に存じます。この紙面をお借りし、略歴を述べさせていただきます。

昭和59年、聖マリアンナ医科大学を卒業後、ただちに同学泌尿器科学教室に入局しました。昭和61年、同学大学院博士課程に入学し、井上武夫主任教授（現、名誉教授）並びに長田尚夫教授（現、主任教授）のご指導の下にインポテンスに関する研究を始めました。平成2年、学位論文「ウサギ陰茎海绵体に対する各種 vasoactive drug の作用に関する検討」で学位を授与され、以後主に勃起に関与する神経伝達物質について研究を続けています。また、当科のインポテンス外来を担当し、インポテンスの臨床にも取り組んでいます。平成4年9月から平成5年9月までは、カリフォルニア大学サンフランシスコ校泌尿器科に留学し、Tom F. Lue 教授の下でインポテンスの研究に従事してきました。

微力ではありますが、JASCTの益々の発展のために尽力する所存ですので、何卒よろしくお願い申し上げます。

幹事会活動報告

幹事会 島 村 忠 義（日本赤十字看護大学）
金 子 和 子（日本赤十字医療センター）
大 川 玲 子（千葉県立病院）

1993年度におけるJASCT幹事会活動の概要をまとめて見ると、以下の通りである。

1. 1993年4月18日、日本赤十字看護大学講堂で行われた第22回性治療研修会のプログラム原案の作成と参加者に対する〔研修会に対するアンケート調査〕を70名の参加者の中で、40名の協力を得て、実施した。調査の結果はニューズレターにまとめて、報告をした。
2. JASCT会員実態調査を53名の会員による協力を得て、実施した。調査の結果はニューズレターにまとめて、報告をした。
3. 〔セクソロジーの専門用語に関する検討会〕を発足し、〔インポテンス〕に関する調査研究を行い、会員105名の協力を得た。調査の結果は第12回神戸の学会において幹事会として発表を行い、1994年度の学会誌に掲載を予定している。
4. 妊娠中の性意識調査を10年前のデータと比較検討するために、理事会で承認され計画している。調査の進行状況は千葉県、東京都、宮城県、大阪府の妊婦を対象に調査を実施中である。
5. 4回以上の研修会参加者（学会参加を含む）に授与される修了証の再検討を含む〔資格認定制度検討会〕が発足し、その基礎的資料を得るために、修了証に関する会員のアンケート調査を実施している。

JASCT修了証に関するアンケート調査ご協力をお願い

JASCTでは研修会4回（2回までに限り学会出席実績も可）の修了者に対し修了証を発行しております。今後の課題として、セクソロジーに関する資格制度を検討するに当たり、“修了証に関するアンケート調査”を実施することにしました。アンケート用紙は、誠に恐縮ですが、切手貼付の上、同封封筒にて1994年1月末日までに、JASCT事務局へご返送賜りますようお願い申し上げます。

なお、本調査は去る9月19日神戸における日本科学学会会場において出席会員の方に対しては既に実施しておりますので、ご提出済みの方は結構でございます。

以上宜敷くお願い申し上げます。

日本性科学会雑誌 VOL. 11. No. 1. MAY. 1993 の中に誤りがありましたので、お手数ですがご訂正をお願い致します。

頁 ・ 行	正	誤
P 3 右下から4 行目	fenestration スケール	fenestration はスケール
P 5 右下から5 行目	不随意に収縮する	不随意にする
P 6 左上から3 行目	いずれ	いすれ
P13 右下から15行目	図8は	図2は